

第2回 部会検討結果報告書（生活・環境部会）

記録者	安藤 英幸	場所	市役所北庁舎3階第1～3会議室	
開催日時	令和2年9月5日（土）午前10時00分～12時00分			
出席者 (11名)	阿部 洋一	岡 智恵	小岩井 雅人	林田 健一
	甫足 みのり	村元 義樹	八木 瞳	
	宮坂 啓介	高森 雄大	能渡 靖	安藤 英幸

基本施策名	2-1 自然・生態系の保護と回復、2-2 緑の整備
内容	別紙：見直し論点シートのとおり
その他	<p>【2-1 自然・生態系の保護と回復】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・検討の前に市全体の状況を説明していただき、共通認識をしたかった。 ・「残された課題」に、啓発イベントや環境教育の実施機会が十分に確保できていないとあるので、オンライン化を推進しつつ現場での機会と併用してどちらか選択できるようになると良い。 ・抽象的な表現が多く、はっきりとわからない。例えば、「調和」や「共存」といった言葉に具体性があると良い。 ・「協働の実践に向けて」に学生ボランティアとの協働とあるが、なかなか学生のところまで情報が届いていない。学生ボランテ

ィアなど活用して工夫すれば情報を広く発信することも可能。

・学生ボランティアについては、外国語大学はプラッツで活動しており、事務所があって専門家がいるので相談できる。困ったときに行けるような場所があると良いのではないかな。

・自然生態系の保護について、今後の方針として維持していきたいのか、より増やしていきたいのかがはっきりしなかった。

・進捗状況の基準がよくわからない。

・浅間山の環境保護活動や緑道の整備、多摩川清掃など地域ボランティアは十分稼働していると言えるが、強制力もないのでその時のリーダーの考え次第で活動しなくなるなど不安定要素もある。

・崖線の上下で農業、商業と産業が分かれており、自然や生態系を維持するのに大きく役立っているので、崖線を保護する活動が必要ではないかな。

・空き家にハクビシンが出て困っているが、市のルールで罠を設置できないため自治会ではどうすることもできない。すべてルール通りではなく、運用でどうにかならないだろうか。

・様々な活動をしているようだが、周知が不足しているように感じる。発行物などでは興味のある人にしか届かないので、イベントなどでさりげなく活動を周知して興味がない人にも向けたら良いのではないかな。

・自治会が動いていることが多いので、もっと働きかけをしても良いのではないか。

【2-2 緑の整備】

・災害用ベンチの設置をなるべく多くの公園にしてもらいたい。

・水害対策としてボートの代わりにする設備の設置があると良い。

・ビルが多いので屋上の緑化を進めてもらいたい。

・台風の後など、樹木から落下した枝が目立つ。今ある緑の維持管理について計画の中にもう少し盛り込んでもらいたい。

・施策目標がわかりづらい。

・主要な事務事業の公園緑地等維持管理事業について、計画の中であまり触れられていないように感じる。民間委託を進めるなどでも良いのではないか。

・主な取り組みとして公園面積の増加が挙げられている。広くなることは良いのだが、広くなってもボールの使用ができないなど使いづらさがあるので、使いやすさの部分を今後のニーズや見直しの論点に追加してもらいたい。

・ボランティアに依存をすると持続性に欠けてしまう。学生にボランティアではなく委託をしてしまうというのも有りなのではないか。

・市外から転居してきたのだが、府中市には大きな公園が多く

あり、割と管理されている印象だったので進捗状況が進んでいないことを意外に感じた。

- ・公園を使用したイベントなども多く開催されていると感じている。

- ・府中に引っ越してきた周りに聞いても、理由は公園があつて子育てがしやすいといった意見が多く、緑の整備は進んでいるのではないか。

- ・めざすまちの姿として、他市から見ても魅力的で緑があふれる街を追加してはどうか。また、現在は時間帯によって公園を使用する年齢層がはっきり分かれてしまっているように感じるため、世代間の交流が生まれて市民の活動拠点となれるような公園を目指してほしい。

- ・市内に東京農工大学と府中農業高校があり、学識経験者として呼んでいるのだが、その都度呼んでいるのでアドバイスが単発になってしまい成果に結びついていない。

- ・植物の本を環境政策課と別々に作らず共同して作製するなど縦割り行政を無くしていけば無駄を減らせるのではないか。

- ・まちなかきらが無償で行っているのに対し、自治会清掃制度やNPO清掃活動には報酬があることから今後報酬を無くす方法で市から提案があったものの反対意見が根強く暗礁に乗り上げている。

・サッカーなどを禁止している公園も多いと思うが、ルールがきっちりしていないため、どの公園なら何ができるのかがわかりづらくなっている。

・ドッグランの設置を検討したが、どこもスペースなどの条件が合わず設置はできないとの結論だった。

・有償の公園を検討しているとのことだが、都立公園で行っている思い出ベンチを導入するのはどうか。

・防災設備を増設し、設置状況を見える化することで、安全安心でみんなが使いたくなるような公園、人が集まるような公園をめざす姿に入れてはどうか。

・健康器具を設置して日頃から使える公園が良いのではないか。

・公園の清掃を誰が行っているのか全く知らなかったなので、現地に看板を設置するなど広く知らせるのは良い。自分が使っている公園であれば、手伝おうという気持ちが出てくるものだと思う。

・他の自治体などで良いと思った事例は積極的に真似して良いのではないか。

見直し論点シート

番号	基本施策名	主担当部	主担当課	関係課
2-1	自然・生態系の保護と回復	生活環境部	環境政策課	

ver 情報

ア. 第6次総合計画後期基本計画の進捗状況

基本施策全体の進捗状況	平均値	施策名	進捗状況	施策名	進捗状況
目標達成に向けて順調	3.0	自然・生態系の保護と回復	3：目標達成に向けて順調		

イ. これまでに（第6次総合計画期間に）得られた成果・残された課題

主な取組と成果	<p>【自然・生態系の保護と回復】</p> <ul style="list-style-type: none"> 多摩川の自然環境調査について、市民団体と協力して生き物の生息状況の把握を進めた結果、植物は例年約250から300種が確認でき、毎年約20から40種が新規に観察することができている。今後も市民と協働で自然環境保全を進めるため、「自然環境調査等協力団体の支援に関する取扱基準」を作成した。 府中市自然環境調査員会議による武蔵台公園の自然環境調査について、公園内に自生していることが確認されていた希少な植物15種を継続的に調査した結果、数年間の調査を通じて、時間経過とともに存在が確認できなくなった種や確認数が減少傾向にある種が存在することが判明するなど、今後の生息空間の保全に必要な重要な情報を収集することができた。 東京農工大学との連携により、武蔵台公園や市内の小中学校敷地内における生き物の生息状況の把握を進めることができた。市内に残存する緑地や潜在的な植生に対する調査や研究が大きく進んだという点で評価できる。
残された課題	<p>【自然・生態系の保護と回復】</p> <ul style="list-style-type: none"> 府中市生物多様性地域戦略に基づき生物多様性に関する初歩的な普及啓発に取り組んできたが、市民意識調査等の結果において有意な向上は見て取れず、取り組み全般の効果は限定的であった。 生物多様性の意義について、全庁的な認識の共有が図れておらず、行政活動に反映されていない。 継続的な自然環境調査や市民団体、研究機関との連携などにより得られた地域の生物多様性情報について、これを活用した具体的な活動につなげ切れていない。 自然環境調査員会議や府中水辺の楽校の構成員について、高齢化や専門性の不足など体制的な問題があり、有効な活動を継続していくため対策が求められている。 上述の実施主体の体制的な問題や天候不順などにより、啓発イベントや環境教育の実施機会が十分に確保できていない。

エ. 次期総合計画策定に向けた見直しの論点

<p>【自然・生態系の保護と回復】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自然観察会や学習会などの普及啓発活動については、より幅広く、効率的に普及促進を図る手法への転換を図っていく。 生物多様性の意義が本市の行政活動全般において共有されるよう、庁内における普及も推進していく。 自然環境調査等、これまでの活動の成果物を活用した保全事業の展開を検討していく。 市民協働の視点から、新たな活動の担い手の確保や事業主体の在り方の見直しを検討し、事業の継続及び事業内容の充実を図る。 外来種対策について、市の実施する防除事業は、市内の実態に適合した事業規模を確保するとともに、研究機関などの知見を活かしたより効果的な手法の導入を検討していく。また、市内広域に散発的に発生する問題であることから、効率的な対応を図るためには、市民や自治会・NPOなどの市民団体との協働により、地域ごとに継続的な取組を行うことが望ましく、その体制作りを検討していく。 個別の調査及びその結果を活かした指標の設定を行い、ゴールを明確にする。 具体的目標及び達成状況を市民の目に触れるよう公表できるようにする。

オ. 協働の実践に向けて

<p>【自然・生態系の保護と回復】</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究機関や専門機関との連携を深め、科学的知見に基づいた生物多様性保全に関する取り組みを推進していく。 企業、大学、NPOなどと連携し、環境教育や保全活動の充実を図る。 学生ボランティアとの協働を推進し、新たな事業の担い手の確保を図る。 小中学生の学習活動と保全活動を融合し、将来を担う世代に効果的な環境教育の機会を提供する。 学生ボランティアなどと連携を取るための相談員が常駐する場所の設置を目指す。 自治会への働きかけを進めていく。
--

ウ. 今後、予想される新たなニーズ・課題

<ul style="list-style-type: none"> 自然環境や生物の保全に関する社会の関心は今後より高まることが予想されるが、市民個人が漠然と抱く関心を日常において独力で具体的な取り組みに結びつけることは依然として容易ではないと想像されることから、市民が自然環境保全に貢献する機会につながる場や情報を効果的に提供していくことが必要である。 愛知目標*や国・都の生物多様性戦略の改定が予定されるなど、生物多様性に関する取り組みは新たな局面を迎えることとなるため、本市もこれらの動向をふまえて、国等の活動と連動して、生物多様性の保全と持続可能な利用をさまざまな社会経済活動の中に組み込む、いわゆる「生物多様性の社会における主流化」に資する、地域の特性を考慮した実効的な取り組みを展開していく必要がある。 <p>*生物多様性条約締約国会議（COP10）で合意された、生物多様性の損失を止めるための20項目の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 外来生物の侵入と拡大は一層進行することが予測され、本市においても市民生活や生態系への影響が深刻化する可能性も否定できない。生物多様性地域戦略に基づき具体的な対策を実行していく必要がある。

見直し論点シート

番号	基本施策名	主担当部	主担当課	関係課
2-1	自然・生態系の保護と回復	生活環境部	環境政策課	

ver 情報

カ. 第6次総合計画（基本構想）における「めざすまちの姿」の見直し

「めざすまちの姿」	<ul style="list-style-type: none">・多摩川、浅間山、けやき並木や農地などの、今ある貴重な自然や生態系を保護し、都市化と環境の調和が取れたまちになっています。・里山など、昔を思えるような自然や生態系を回復し、人間と生物の共存できるまちになっています。
見直しの理由	<ul style="list-style-type: none">・・

見直し論点シート

番号	基本施策名	主担当部	主担当課	関係課
2-2	緑の整備	生活環境部	公園緑地課	

ver 情報

ア. 第6次総合計画後期基本計画の進捗状況

基本施策全体の進捗状況	平均値	施策名	進捗状況	施策名	進捗状況
やや遅れているが、概ね順調	2.0	緑のまちづくりの推進	2：やや遅れているが、概ね順調		

イ. これまでに（第6次総合計画期間に）得られた成果・残された課題

主な取組と成果	<p>【緑のまちづくりの推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インフラ管理ボランティアの活動が浸透し、登録団体が増加した。長期登録団体数27団体（平成28年）→38団体（平成31年）。 ・市立公園の面積が増加した。市立公園面積約1,355千㎡（平成28年）→1,366千㎡（令和2年）。
残された課題	<p>【緑のまちづくりの推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・質の高い緑の確保のため、量的な充足に加え、公園の防災機能の向上、公園施設の充実や適切な維持管理などの質の向上へ、緑のまちづくりの考え方を転換。緑あふれるまちとしての市民満足度の向上を目指す。 ・適切な維持管理。市民・民間事業者との協働により、誰もが快適に利用できるような公園の維持管理を目指す。

ウ. 今後、予想される新たなニーズ・課題

<ul style="list-style-type: none"> ・地域の声を反映し、地域ごとに特色ある公園を配置する。 ・ボランティア制度をより利用しやすい制度に変えていく。 ・市民や民間事業者同士の連携。 ・官民連携手法の導入を検討する。 ・バスケットボールやスケートボードなどができる公園を明確にする。 ・防災機能を強化する。 ・魅力ある公園づくり。

エ. 次期総合計画策定に向けた見直しの論点

<p>【緑のまちづくりの推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公園等の適切な維持管理のための、維持管理体制の見直し。市民・民間事業者との協働、官民連携手法の活用などの検討。 ・自治会清掃制度の見直しとインフラ管理ボランティア制度の拡充。 ・有料公園など管理の徹底した安心して使える公園の設置を検討。 ・地域住民の意見が反映しやすい公園づくりの方法を検討。 ・スポーツの種類によって一部の公園に集約させたり、時間を決めるなどルールの特典化を検討する。 ・防災機能の強化にあたって、設置の進捗状況を指標として管理する。 ・実用的で魅力のある公園づくりを検討する。

オ. 協働の実践に向けて

<p>【緑のまちづくりの推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インフラ管理ボランティア制度の拡充。 ・自治会清掃制度の見直しで持続的な活動を支援 ・市民・民間事業者等と行政との協働を進める体制づくりとして中間支援組織の導入 ・市民が自主的に行動したくなる環境づくり ・東京農工大学と協力して管理を行う体制づくり

カ. 第6次総合計画（基本構想）における「めざすまちの姿」の見直し

「めざすまちの姿」	<ul style="list-style-type: none"> ・市民や市民活動団体、教育機関や民間事業者、行政など様々な主体が協働しながら「緑を育て 緑に育てられる 「緑育」のまちづくり」に取り組んでいます。 ・公園や都市緑化で緑あふれるまちとしての市民満足度の向上が図られています。 ・他市から見ても魅力的で緑があふれており、防災機能を備えた安心して過ごせて、世代間の交流が生まれる市民活動の拠点となっています。 ・市民一人ひとりが緑を保全・整備する意識を高め、市とともに緑化活動に取り組み、まちの特徴である緑を守り、育てています。 ・歩いて行ける場所に公園があり、道路の緑や緑道、用水や湧水など、身近に水や緑とふれあい、憩い、やすらぎを感じることのできるまちになっています。
※斜体は市担当課が見直し	
見直しの理由	<ul style="list-style-type: none"> ・府中ならではの緑や人材などの地域資源を最大限活用し、緑の質をこれまで以上に向上させ、育てていくことから、令和元年度に「府中市緑の基本計画2020」を策定し、計画テーマと将来目標に位置付けたため。